

# バイオ系のキャリアデザイン

就職支援 **OG OB** インタビュー編

## Interview ①

トヨタ自動車株式会社 新事業企画部 バイオ・緑化研究所（主幹）

保谷 典子



出身大学・卒業年度：東京理科大学大学院 修士課程 基礎工学研究科 生物工学専攻 1998年度  
修士論文タイトル：イネ未熟種子特異的プロテインキナーゼの生化学的性質の解析

### 「現在の仕事について」

#### ◆担当職務

セルロースエタノールに関するエタノール発酵プロセス開発。

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容  
入社後1年間は、イネの品種開発、ポリ乳酸プロジェクトに参加。ポリ乳酸プロジェクトでは、乳酸発酵プロセス開発を担当し、実証プラントの立ち上げ、運転に従事。その後、セルロースエタノールプロジェクトに参加してエタノール発酵プロセス開発を担当、現在に至る。

乳酸発酵プロセス開発では、自社開発した菌体の能力をラボで最大化し、その能力をプラントでも引き出せるよう、プラント設計から立ち上げまで関わり、実験室からプラントまでのスケールアップ技術を習得できた。この時に培った技術は、現在の仕事でも大変役に立っている。

#### ◆そこでのやりがい

発酵菌の開発、ラボでの発酵条件最適化、プラント化まで各ステップでの課題を解決しながら、仕事を最後までやり通すことができた達成感は、自身の成長につながったと感じている。

#### ◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

自分のやりたいことを口に出して言える風土。自身の仕事の位置づけ、意義を明確化して仕事を進めていくところ。

#### ◆現在の就職を決めた理由

イネの品種開発の内容が自身の大学研究テーマと合致していたため。

#### ◆将来設計（描けるキャリアパス）

現在従事しているプロジェクトの実用化を目指し、さらに専門知識を深め、自身のスキルアップをしていきたい。今後は、新たなプロジェクトの提案など、マネジメントにも関わっていきたい。

#### ◆社会人として一番感動したこと

自身の業務が社会の役に立っていると実感できるとき。

#### ◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

一番困難だったことは、上司への報告・連絡・相談の仕方がわからず、自分の意見を伝えることができなかったこと。日々の仕事の中で人間関係を構築することの重要性を学び、今でも周囲とのコミュニケーションを大切にしている。

#### ◆仕事のプロになるコツ

自分の仕事を好きになること。新しいことにも全力で挑戦し、どんな仕事にも全力で取り組むこと。

#### ◆理系人材材力、どこで発揮していますか？

小さなPDCAを回しながら、論理的に進めていく実験における物の考え方は、日々の業務でも非常に役に立っている。

### 「人生について」

#### ◆何のために働くのですか？

一番の目的は生活のためだが、それだけではつまらないので、自身の人生の充実のために成長し続けていけるよう、新しいことを恐れずに挑戦し続けようと思っている。

#### ◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

仕事のモチベーション向上。仕事を精一杯やり遂げて、成長を感じられた時のご褒美。

#### ◆ワークライフバランスで工夫していること

仕事が楽しいと思える範囲で頑張ること。仕事を頑張りすぎるとすべての生活が崩れてしまうため。

#### ◆将来の展望

いつまでも元気で、定年まで楽しく働き続けること。

### 「後輩へ」

#### ◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

学生の間に、自分の好きなことを見つけてください。そうすれば、社会に出たときに、思いっきり仕事に打ち込み、自分の好きな方法でリフレッシュすることができます。

連絡先 E-mail: noriko\_yasutani@mail.toyota.co.jp



出身大学・卒業年度：奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科細胞遺伝学講座 2000年度卒業  
博士論文タイトル：細胞増殖に必須な枯草菌2成分制御系遺伝子の解析

## 「現在の仕事について」

### ◆担当職務

がんに苦しむ患者さんに根治をもたらす新薬を届けるために、標的分子探索、抗腫瘍効果を示す抗体の作製・評価に取り組んでいます。

### ◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

博士課程終了後、三共株式会社に職を得て、がん治療標的分子の探索、阻害剤のスクリーニングを4年、がん細胞特異的抗体の探索研究を2年。その後、留学機会を得て、米国サンディエゴ Scripps 研究所で2年間、がんの転移を抑制する抗体の取得などに取り組みました。帰国後は合併後の第一三共で、細胞のがん化に着目した標的探索や抗体評価を進めた後、第一三共の子会社であるドイツバイオテック U3 Pharma へ転勤となり、3年半の間、抗体医薬の研究に携わりました。帰国後、がんの根治を目指した生物製剤の探索研究を進めています。

### ◆そこでのやりがい

研究成果が人の命を救うことにつながっていること。

### ◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

仕事を通じて、社会に直接貢献できること。

### ◆現在の就職を決めた理由

研究を通じて、世の中の人々の命を救う仕事がしたいとの思いがあり、基礎研究から製品開発、販売まですべてを担っている製薬会社の研究部門が最良の選択肢と考えました。

### ◆将来設計（描けるキャリアパス）

組織全体の Science に責任を持つ人間になりたいです。

### ◆挑戦したいと思っていること

日常が、病気やメガファーマへの挑戦の毎日です。

### ◆社会人として一番感動したこと

自分の取得した抗体医薬をリードとして、臨床試験が開始されたこと。

### ◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

枯草菌の研究をしていた自分が、入社後配属されたのが、がん探索研究グループ。知識も技術もゼロで途方に暮れ

ました。それから14年間、及ばずながら全力です。

### ◆仕事のプロになるコツ

本質的なゴールや課題を見極めて、ゴール達成のためにあらゆる情報を収集・解析した上で、独自のフローを組み立て、周囲とゴールイメージを共有してから、全力で取り組む。周囲が力を発揮できるように常によい環境を提供できるようにも考えています。

### ◆博士力、どこで発揮していますか？

客観的なデータの見方、考え方。本質的な課題を見つけて、根本的な解決案を提案するなど。

## 「人生について」

### ◆何のために働くのですか？

自己実現

### ◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

労働の対価、家族のためですが、未だ自分の研究成果が薬として市場に出ておらず、会社の利益に貢献できていないので、毎月給与を貰うことに引け目を感じています。

### ◆ワークライフバランスで工夫していること

休日は、可能であれば自分と家族のために使う。

### ◆現在の夢

自分の研究成果から、病気の辛さや再発の恐怖を取り除いて、人々が、健康で悔いのない人生を全うできる世界が、実現したら最高ですね。

### ◆将来の展望

何とかして自分の手から、複数の革新的新薬を患者さんに届けたいです。

## 「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えることもっと勉強しておけばよかった。歴史、語学、化学。

### ◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

自分の勝負する分野では、妥協せずに、でも感情は抑えて、最大限の努力をすれば道は開けると思っています。

連絡先 E-mail: fukuchi.keisuke.y3@daiichisankyo.co.jp